

東京大学 理系 Part 2

ありむら てっぺい (理Ⅲ・立教新座)
有村 鉄平さん ※東京慈恵会医科大、順天堂大、
日本医科大、昭和大

くぼ たつや
久保 龍哉さん (理Ⅰ・駒場東邦)

ごんだい りょう
権代 凌さん (理Ⅰ・早稲田)

すずき てんま
鈴木 天馬さん (理Ⅰ・海城)

なかの たいき
仲野 太喜さん (理Ⅰ・駒場東邦)

ますざわ かいと
栴澤 海斗さん (理Ⅰ・開成)

※その他の医学部合格大学

中1のスタートダッシュ講座を受講して、そのまま入塾しました。
英数を早めに勉強して基礎を固めておいた方がいいと聞いていたからです。
グノは先生と生徒の距離が近くて、先生とのコミュニケーションがとりやすいです。

鈴木 天馬さん (理Ⅰ・海城)

目次

- 東大を志望した動機…………… P22
- 入塾のきっかけ…………… P23
- グノーブルの英語…………… P23
- 英語が伸びた時期…………… P25
- グノーブルの数学…………… P26
- グノーブルの国語…………… P27
- グノーブルの先生…………… P27
- グノーブルの環境…………… P28
- 理Ⅲの面接…………… P29
- 後輩へのアドバイス…………… P29

※●は、このPDFフルバージョンのみの掲載項目

東大を志望した動機

権代: かなり前から「国立大に進学して研究したい」と思っていたのですが、東大受験を決めたのは高3の10月くらいです。化学分野の研究をしたいと思っていますが、具体的に学部を決めているわけではありません。化学といっても、工業系もあれば理学系もあります。東大は日本で一番レベルの高い大学なので、そこに入れば、最先端の研究ができるだろうという期待があります。

鈴木: 高2の春に「東大を狙おう」と思いました。その時期から、学校の成績が東大を狙えそうなレベルに達して、特別立派な志はありませんでしたが、「どうせ狙うなら一番レベルが高いところに」と考えました。機械系に興味がありますが、適性もあるので、現段階ではそれが正しい進路なのかわかりません。だから、大学に入ってから進路を決められる進振りは大きいです。

栴澤: 東大に決めたのは高校入学後の夏です。僕は中学は開成ではなく、田舎に住んでいました。開成入学後に現代数学に触れ、もともと数学に興味があったこともあって、「大学でも数学を勉強したい」と思いました。その夢を叶える場として、優秀な学生が集まる東大に魅力を感じました。将来的に数学がどういう形で役立つかわかりませんが、まずは学問に打ち込みたいです。そして、進振りまでに自由な時間も増えると思うので、いろいろな分野を学んで、自分に合う学部を最終的には選ぶつもりです。

仲野: 高2の夏に東大のオープンキャンパスに参加して、広くて設備もしっかりしている環境に心惹かれました。「将来、何をやるにも東大に入っておけば困らないな」と思いましたし、まだ将来の目標が決まっていない僕にとって、進路選択を先送りできる進振りにも魅力を感じました。

久保: 高3に進級した頃に決めました。高2の時に将来やりたいことを模索していましたが、結局決まらなくて、「どうしようかな?」と悩みました。学校側からは志望校を決めるように言われ、「それならとりあえず東大を志望しておけば、後で他の大学を受験したくなくても対応できる」と思って東大志望



有村 鉄平さん (理Ⅲ・立教新座)

にしました。受験勉強をしていく中で、仲野君と同じく、東大の進振りに心惹かれていきました。

有村: 僕は高2の期間をかけて少しずつ心が決まっていきました。もともと医師になりたかったのですが、東大で医学部を目指す難しさは、中1から大学受験の勉強を始めていたのでわかっていました。だから、そもそも東大の医学部を受験する気はありませんでした。でも、中3で私立の医学部のオープンキャンパスに参加して、違和感を抱きました。というのも、僕が将来目指しているのは、再生医療や遺伝子工学、ITと医療を組み合わせた総合サービスなので、医療のことをメインに勉強する私立の医学部に魅力を感じなかったからです。一方、東大は、他の専門分野の人たちも集まっています。その中に医学部があるという環境です。「自分の夢を叶えるには東大を目指した方がいい」と改めて考え直しました。再生医療といえば京大ですが、東大は新しいプロジェクトや起業を支援してくれます。総合研究の実績も京大より東大の方が多いです。だから、京大にこだわる必要はないと思いました。

入塾のきっかけ

権代: 高1の1月に英語で入塾しました。先輩から勧められたものもありますが、他塾の情報誌でグノの名前がよく挙がっていたので気になった感じです。「良い塾なのかな?」と思って初回授業に参加したら実際に良い授業だったので、そのまま入塾を決めました。前コマと後コマの授業があって、振替ができるのも他塾にはない利点でした。

仲野: 友達のお母さんから「英語ですごい塾がある」という話を聞いて、中3の春に受講してみたらその通りすごい塾でした。他塾と比較すらしませんでした。

久保: 僕も、仲野君と同じ人から話を聞いて、テニス部の先輩がたくさん通っていることもあり、英語で入りました。「先生と生徒のやりとりが多い!」というのが第一印象でしたが、そういう授業が気に入ったし、振替などが充実していて部活と両立できるので、グノで最後までがんばることにしました。

柘澤: グノを知ったきっかけは広告です。『大学への数学』でよく目にしていました。それに校内での評判も非常に良かったんです。高2の9月に、それまでお世話になっていた家庭教師を辞めて、東京で塾を探しました。いろいろな塾を検討しましたが、僕は集団塾に慣れていないし、自宅が遠くて夜遅い時間帯の受講は厳しいという事情がありました。その点、グノは少人数制ですし、授業開始時間が早くて、抵抗感なく通えそうでした。

鈴木: 僕は中1のスタートダッシュ講座*を受講して、そのまま入塾しました。英数を早めに勉強して基礎を固めておいた方がいいと聞いていたからです。父がいろいろな塾を検討しましたが、僕は当時そこまで成績が良くなく、自分に合わせて優しく授業をしてくれる塾を希望しました。グノは他塾と違って、先生と生徒の距離が近くて、先生とコミュニケーションがとりやすいです。先生が親身にアドバイスをくださるとモチベーションにもつながるので、そういう点が入塾の決め手になりました。

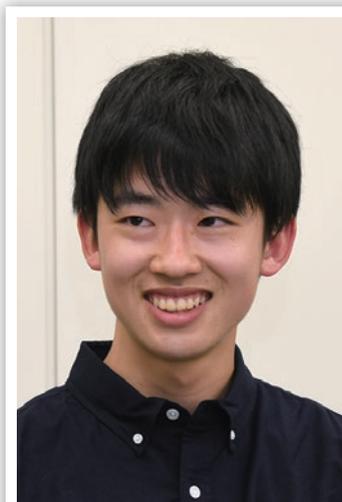
*新中1生対象の講座(2~3月に開講)。

有村: 僕も、数学のスタートダッシュ講座から受講しました。グノを知ったきっかけは、幼稚園の時からお付き合いのある先輩のお母さんから、「大学受験を考えると、グノーブルがとてもいい」と両親が聞いていたことです。僕は当時、大学受験を考えていませんでしたが、小学校時代から中学受験するわけでもないのに学習塾に通っていました。両親が「必ず役に立つから、勉強はしておきなさい」という方針だったからです。それで両親に勧められるままグノの講座を受講したら、授業がめちゃくちゃ面白かったし、皆が勉強を楽しんでいる雰囲気も気に入ってグノへの入塾を決めました。

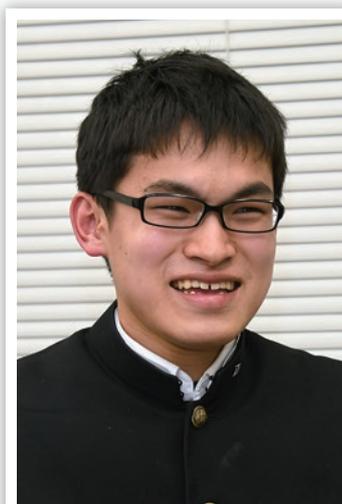
しばらく数学で通っていて、勉強が面白くなってきたので、「大学受験をしよう!」という意識が芽生えました。そうなるに英語も必要です。僕は小学校で英検の勉強をしていましたが、大学受験の英語とは性質が異なります。だから、大学受験のために英語の授業を受けたくなくて、中2から英語も受講し始めました。中1から通っているグノ生と比べると、スペルを覚えていないなど遅れているところがあったので上のクラスに入れなくて、最初は苦労しました。

グノーブルの英語

久保: いい意味で衝撃的だったのは、単語帳は使わないという方針でした。僕は、受験勉強だからといって、意味のないことをガリガリ覚えるのは嫌いで、ただの丸暗記はしたくありませんでした。でも、グノの授業を受けていれば、英単語を楽しく身につけられました。語源からの解説は話を聞いたり、板書や先生の身ぶり手ぶりを見ているだけで面白かったし、文章と関連して単語を覚えられたり、1つの単語からいろいろな単語を派生させて覚えられたりして、受験まで単語帳を使わずに済みました。



久保 龍哉さん (理 I・駒場東邦)



権代 凌さん (理 I・早稲田)

仲野：授業はいつもいい刺激に満ちていました。授業で扱う英文が面白くて、最近の時事を反映した興味深いものも多かったので、英語を勉強しながら、様々なことへの知識が増えました。

周りの生徒のレベルもすごく高くて、いつも「自分よりできる人がいる」と感じられて、それも刺激的でした。僕は学校で英語ができる方なんです(笑)。それなのに、グノに来ると毎回自信を打ち砕かれました。

高2高3では授業で扱う英文の質の良さを感じていました。きちんとした根拠がないと答えられない問題が多く、そういう問題に取り組むことで英語力も思考力もアップしました。

有村：グノの授業は常に面白くて、勉強をいつも楽しめました。受験が終わるまで勉強嫌いになることは一度もありませんでした。英語の授業も塾によっては1文1文を構造分解して文法の説明をしますが、そういうのは面白くないと思います。グノでは先生が興味を持てる英文を豊富に用意してくださって、解説も英文の深い内容にどんどん入っていくので、毎回たっぷり楽しめました。

僕はグノに入る前から、英検の勉強でたくさんの英文を読んでいて、それが自分には合っていました。グノでもいろいろな研究成果や時事問題、芸術の話や文学などに英語で触られました。理屈をいろいろ知ることよりも、とにかくたくさん読むことが英語の勉強には大切だと思います。そもそも、文法や単語をたくさん覚えるだけの受験英語は嫌いです。グノは受験を意識しなくて良かったので、「英語が嫌い」と思ったことは一度もありませんでした。

柘澤：事前に教材が配られて、予習を要求するのが一般的な塾のやり方だと思います。予習していかないと授業を受けても意味がないし、かといって部活をやっていると予習するための時間を確保できません。

一方、グノは予習前提ではなく、授業中に演習します。その方が集中できるし、演習した内容が鮮明なうちに解説を受けられるので効果も上がります。その場で添削もしていただけるので、自分で気づけなかった点には特に注意して解説を聞けます。こういうスタイルは、僕にはぴったりでした。

それから僕は、英文を読むというのはどういうことかをグノの授業で知りました。文法や単語がわかっていて、正しく和訳ができていても、その文章を理解できていないことは多々あります。足りない部分に気づかせてくれたのがグノの授業と教材です。先生の解説を受けると、表面的な読み方のペールの下から別のものが現れてくるのがよくありました。グノで扱われる英文は、題材の面白さはもちろんのこと、簡単には解釈できないからこそ面白さが味わえるものが用意されていて、すごいなと感じていました。

僕は受験に特化した勉強をするのが苦手で、そこに目的意識を持ってないでいました。でも、グノは受験を前面に押し出していなかったので、全く抵抗感なく勉強を楽しめました。

権代：毎週添削があるのは確かに珍しいです。他塾だと、添削がない場合がほとんどです。しかも、以前の課題をやり直したり、和訳してみたものを提出すれば、それも先生は丁寧に添削してくださいました。直前期には過去問も細かく添削してアドバイスもいただけました。先生に質問をするのも、直接話して相談をすることも気軽にできる点もグノの特長でした。

それから、グノといえば音読です。授業で理解した教材の音読を繰り返すことで、英語の語順のまま解釈していく感覚がつかめていくし、その文の中で使われている単語もすんなり頭に入っていきます。本当に市販の単語帳が要らなくなります。

鈴木：僕は高1の頃、段々成績が下がりクラスも落ちていきました。このままではマズイと思って、先生に相談に行ったら、勧められたのは音読でした。それまでは音読を真面目にやっていなかったんです。その後、GSL*を聞いて音読するようになったら、成績もクラスも上がりました。あの時音読を勧めただけで本当に良かったです。

その時に思ったのが、単語帳は見ていると眠くなるが、音読は眠くならないということでした。音読の習慣は生活の中にも無理なく組み込めます。寝る前に音読を10回繰り返したり、電車の中でGSLを聞いたり、体を使っていくのはむしろ楽しいんです。黙読だとスラスラ読んでいる気がして読み飛ばしもありますが、音読だと「自分はどこがわかって、どこがわかっていないか？」を認識できることにも気がつきました。例えば、冠詞のaやtheにも音読だと意識できるようになって、英語の感覚が鋭くなるんです。理解できていない語法や文法事項にもすぐに気がつきます。黙読よりも音読の方が圧倒的に文章への理解を深められます。

* GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

柘澤：授業で解説された教材を当日や翌日に音読していると、単語や内容も頭に入りやすいし、音読しながら、授業で解説されたことの深い意味がわかってきたりもしました。GSLもあるので発音の練習にもなります。間違った発音で読んだり、自分なりの読み方を定着させる音読はかえってマイナスですが、グノではGSLがセットになっているのでそんな心配はありません。リスニング対策にもなって一石二鳥です。



鈴木 天馬さん (理I・海城)

仲野：僕は音読が楽しいから好きでしたし、積極的に取り組んでいました。駒東では「基本例文集」が高2で配られて、その音読を勧められます。グノで音読の楽しさを知っているので、「基本例文集」の音読までも楽しくなりました。音読さえすれば、「英語を伸ばそう」と意識しなくても必要な英語力は身につくと思います。

鈴木：僕は、高1で音読を始めるまでは、市販の単語帳を使って単語を覚えようとしていました。でも、単語帳では結局成績が伸びず、音読で伸びました。僕は幼少期から声に出して物事を覚えたり理解したりしていました。そんな僕には、音読が合っていたのだと思います。グノのGSLは、学年によって、文の区切れごとにポーズが入っているバージョンや読むスピードを上げるための速いバージョンなどがあって、英語力を伸ばすための音声教材がそろっています。

久保：音読の効果については、僕も実感していました。ひとつ付け加えるとすれば、音読のコツですね。以前先生が「大勢の聴衆の前でスピーチをするように音読しよう」とおっしゃっていたので、僕は風呂でもスピーチをするつもりで音読をしていました。風呂だと声が響くので、マイクがあるような感じになって、大勢の前に立っている自分を想像しながら、テンションを上げて音読していました。

有村：僕の場合、余分な情報がついていた方が覚えたり定着させたりしやすいようなんです。余分な情報というのは、「この英文を書いた筆者の観察眼は鋭い！」という感想や、「あの時本当に間抜けな解答を書いてしまった」という記憶などです。音読は、授業中に解説を聞いたり自分が考えたりしたことを思い出す作業として役立ちました。

それから、単語帳で味気なく何の関連もない単語をバーツと覚えるよりも、授業で出てきた単語だと単語自体に情報がタグ付けされ、頭に入ってきやすかったので、単語を覚えるのにも音読は有効でした。

グノは音読を推奨しますが、皆で読み合わせするわけではありません。先生方も「こうやるといいよ」とはおっしゃいますが、「絶対にこうしなければならない」と押し付けてはきません。だから、自分に合ったスピードと量で音読ができて、それが僕には合っていました。

英語が伸びた時期

権代：僕が伸びたのは受験直前期です。第2回東大模試の英語の点数にショックを受け、それからは、グノで扱ったテキストの内容をすべて自分のものにしてしまおうと必死でがんばりました。音読をきちんとやって内容理解と知識の取り込みに力を入れると同時に、あいまいなところはすべて先生に質問したり添削をお願いしたりしました。

グノの復習に力を注ぎ込んでいたら最後の最後になってようやく、要約のやり方がつかめてきたような気がして、そこから自信が持てるようになりました。過去問も添削してもらいましたが、過去問はそんなに何年分もやらなくても、グノの教材だけやっておけば大丈夫だっただろうと今は思っています。

鈴木：僕は高1の頃は基礎クラスに落ちてしまい本当に「ヤバイ」という気持ちでした。音読を始めて、高1のうちに伸びを実感でき、その後も音読を習慣化できたので、ガクッと下がることは最後までありませんでした。

久保：僕は上位のクラスを維持していましたが、毎週の授業ではボコボコになっていました。要約の点数もひどくて、演習プリントも外的な記述ばかり書いていました。でも、先生からはいつも、「点数が悪くて落ち込む気持ちはわかるけれど、課題が見つかって良かった、この課題を理解して自分のものにすれば確実に力は上がるから」と言われ続けていたので、頭を切り替えて復習に努めていました。

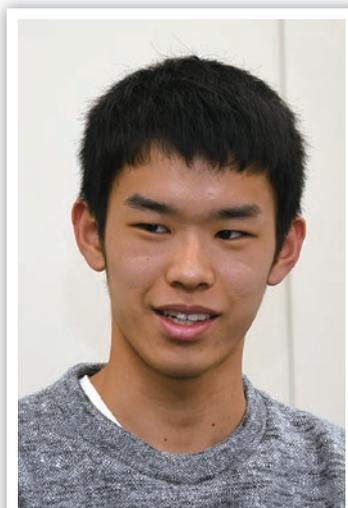
そんな状態でしたから、「読むスピードが上がってきたな」とか「力がついてきたな」とか感じることはあっても、突然伸びたという気持ちを感じた時期は特にありませんでした。

仲野：僕の場合も、急激に伸びたとか、一気に伸びたという時期は思いあたりませんが、TLP*に選ばれたので、力は確実についてはいるはず。「合格点をとればいい」と思って英語を勉強していたわけではなくて、受験に関係あるかどうかにかかわらずグノの英語には真剣に取り組んでいました。それが良かったのだと思います。

* TLP (Trilingual Program) : 「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位1割程度に入った学生に認められています。

柊澤：受験を見据えて勉強するとすると、ある程度目安が必要です。「この単語帳をすべて覚えれば受験で大丈夫」というような目安がグノにはなくて、そこがちょっと不安になったこともありましたが、でも、東大受験生に有名な単語帳を後で見ても、「こんな単語しか載っていないの？」と拍子抜けしてしまい、自分ができるようになっていることを実感しました。

グノの授業で、大学受験レベルを超えた語彙力も無理なくついていったのです。知的にレベルの高い



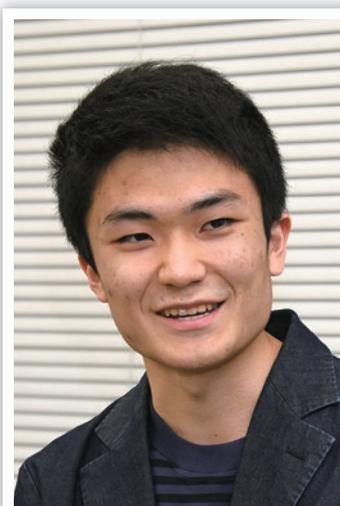
仲野 太喜さん (理I・駒場東邦)

英文も抵抗なく読めるようになりました。要約にしても、他塾の人だと、具体例に線を引いて消すなどの作業がメインのようです。一方、グノだと、もっと本質的な視点から問題を俯瞰できるようになります。グノに通っている周りの人も優秀なので、グノの授業を受けていると自分では伸びを実感しにくいかもしれませんが、授業を楽しんで受けて、音読をし続ければ、確実に英語力がついていくのだと思います。

有村：僕の場合も、グノに入ってから客観的な基準で英語力を測る場がなかったので、伸びているかどうかはずっとわからないままでした。初めて東大同日模試を受けたのは、入試本番の2年前、高校1年生の時でした。この時は「英語が結構できたぞ！」と思ったのですが、結果は78点で理Ⅲを目指すには低すぎる点数でした。「ここから伸びるのかな？このままでいいのかな？」と少し不安になりましたが、高2の1年間は変わらず、ずっとグノに通っていただけでした。そして、入試本番1年前にも東大同日模試を受けたら、90点近くまで点数が上がっていました。受けた時は「できていない」と感じていましたが、点数が良いという客観的事実がすべてを物語っていました。

それから、以前購入して使っていなかった単語帳を開いたら、そこに載っている単語のほとんどが頭に入っていて、このことから英語力の伸びを感じました。いつの間にか力がついていたんです。最終的には、大学受験で英語の点数がアドバンテージとなり、人より英語が得意と思えるまでになっていました。

今年の本番の受験では僕もTLPに選ばれました。そもそもTLPを目標にしていたわけではありませんし、当日も特に何も考えずに受験していました。グノのお陰で、確固たる英語力がついたのだと思います。



栲澤 海斗さん (理Ⅰ・開成)

グノーブルの数学

久保：高1の時に受講した数学は、数ⅡBを学習するカリキュラムでした。初めて学ぶ人がほとんどでしたが、先生は僕たちの何も知らない状態を大事にしてくださいました。他塾だと、数列や積分などの分野を「こういう公式があります」とただ進めていくだけだと思います。一方、グノでは、新しい概念をクイズ形式で示してってくださいました。僕たちは、自分たちの頭を使いながら、クイズの中で数学の新しい概念に触れ、その概念に慣れていきました。僕は自分の頭を使うのが面白くて大好きなので、毎週「自分が答えたい」と思って受講していました。

有村：高1までの授業では、先生は新しい概念の導入に時間を割いてくださいました。例えば、ワイン樽の体積を求めなければならなかったから積分が生まれたという話は今でもよく覚えています。「数学ではこんなことができるんだよ！すごいでしょ？」という先生の思いがひしひしと伝わってきました。僕も「すごい！」という素直な驚きがあって、「受験勉強しないと！」というよりも「数学は面白い！」とあって授業を受けていました。

鈴木：高1までの授業は数学に親しんで好きになるための授業だったと思います。僕も、公式を使わないで無理やり解いて、「やってやったぜ！」という満足感を味わうために毎週がんばっていました。

有村：高2からは受験数学への戦略的取り組みにテーマが変わりました。そうは言っても、問題をガリガリやる感じではなかったのが、問題を解き終わった後や解説を聞いた時に「面白い」と感じるが多かったです。

ただ、板書量がすさまじいあの授業を最初に受けた時はカルチャーショックを受けました。数学の授業なのに日本語が大量なので面喰ったんです。でも先生から、「論理的な思考力を養うには、使う道具のことも、なぜその道具を使うのかも理解する必要があって、そのためのノート作りをする」という明確な提示がありました。先生の話し方には、「今はよくわからないけれど、この人についていこう！」と思わせてくれるオーラがありました。翌週の授業では、「前回の授業で扱ったことがこうやって活かせる」と僕たちに実感させてくださいました。最初はついていくのがたいへんでしたが、短期的でなくて長期的な視点で練られたカリキュラムだと信じられました。

鈴木：高2の3学期から、毎週難しい問題が10題宿題として出されて、1問1時間くらいかけて解いていました。夏休みはそうした問題がさらに増えて、それらを全部解いてきたので数学に自信がありました。それなのに、後期の演習授業を受けたらなかなか点数をとれませんでした。

宿題はどれだけ時間がかかっても解ければいいのですが、演習は90分で4問を解かなければいけません。僕は1問に60分かけてしまうことが多かったんです。

僕は、そのことをセルフチェックシートに書きました。セルフチェックシートとは、グノの数学で行われている自分の課題や反省点を自分で記入していく用紙のことです。自分の失敗の原因を書かないと、その記憶は一瞬で消えてしまいます。書き残すと同じことを繰り返さなくなります。

セルフチェックシートを書くようになってからは、1問に時間をかけすぎず15分で解き終わらな

ければ次に進むというやり方に切り替えました。セルフチェックシートは僕の悪いくせを明確にしてくれたのでありがたかったです。

有村：セルフチェックシートは偉大です。できた問題に関しては、「自分はこういうところに気づいたので良かった」と書き残しておくことで、偶然その問題に勝つたのではなく必然的に勝てるようになっていきます。勝因を文字にして保存しておく、「たまたまではなく次もできる」という確認になります。

一方、できなかった問題に関しては、「どうしてわからないのか？」を書いているうちに怒りがこみあげてきます。怒りが沸騰しそうな状態で授業に臨むので、死ぬ気で解説を聞けました。セルフチェックシートがなかったら、解けない問題と出会っても流してしまって、せっかくの解説も自分の中に残らなかったと思います。

セルフチェックシートは、自分の課題を印象付け、そこから教訓を得るのに役立ちました。後日リベンジマッチの問題が出てきた時に、以前できなかった問題ができれば「やった！」となり印象深いものになるし、できなければ教訓がさらに深く記憶に残ります。セルフチェックシートは単に自分と向き合うためだけではなく、自分を自分で叱咤激励するものにもなっていました。



有村 鉄平さん（理Ⅲ・立教新座）

グノーブルの国語

有村：高1で1年間古文を、講習で漢文を受講しました。古文は最初、下のクラスに入っていて、少人数の中でずっと教わっていました。古文は日本語とはいえ複雑で、人によってわからないところも違ってきます。僕は行間が読めず、誰がこのセリフを言っているのかとか、誰がこの行動をしているのかといったことがわからなくなって、物語を追いかけていけませんでした。そんな僕でしたが、先生と頻繁にやりとりしながら進んで行く授業を受ける中で、先生にどんどん当てられ、重点的にわからないところを解説していただいたお陰で、力をつけることができました。古文単語も英単語と同じく語源から教えていただけて、覚えなければいけないことに副次的な情報がついていたので、頭に入ってきてやすく、僕には合っていました。

仲野：僕も高1の1年間、古文を受講しました。先生がとにかく面白くて、説明の時も身ぶり手ぶりが激しかったり、ジェスチャーがあったりして、捉えにくい古文がわかりやすくなりました。高3になって本腰を入れて古文を勉強し始めた時に力を伸ばせたのは、高1の時のグノの古文があったからでした。

鈴木：僕も高1で古文を受講しました。担当の先生は、いろいろな例や身近な話題を出してくださるので、わかりやすくてとても面白かったです。例えば、「にくし」という古文単語が出てきた時に、ちびまる子ちゃんが「にくいね」と言って褒める時の意味と同じだという例が鮮明に記憶に残っています。古文には男女関係のもつれなどの話もありますが、それを現代風に話していただけて、僕でも納得できました。

榊澤：僕は高3で東大国語を受講しました。グノの授業は内容理解に重点を置いていて、文章の内容をしっかりと理解してから1問1問解答するので「この文章を読み切ったぞ」という達成感がありました。細かいところまでおろそかにせず、理解してから解くことを繰り返すのは良かったです。過去問の添削をしていただけたのも助かりました。「自分は何ができなかったのか？」を把握しながら勉強できました。

権代：僕は講習でしか国語をとっていませんでしたが、授業が面白いというのは本当でした。それから、講習生の僕でも東大の過去問の添削をしていただけて、先生には本当に感謝しています。



久保 龍哉さん（理Ⅰ・駒場東邦）

グノーブルの先生

久保：僕は、英語は好きでしたが、もうひとつ自信が持てなくて、授業中の難しい質問の答えがわからなくても勇気を出して手を挙げられないことがありました。そんな僕の表情に先生はちゃんと気づいて当ててくださったことがあります。とてもうれしかったです。生徒一人ひとりを見ていてくださってすごいなと思っていました。

仲野：名前をすぐに覚えてもらえて、一人ひとりを見てもらえるのはやはり良かったです。しかも、数年前にお世話になった先生が、今でも覚えてくださっていて、たまたますれ違った時に声をかけてくださることもあって、その時は結構感動しました。

グノに来て、「塾はテクニックに頼るものだ」という固定概念が崩れました。先生方は毎回、様々な教材を用意してくださったし、英語以外にも本当に多くの話をしてくださいました。先生方のお陰で、受験勉強の枠を超えて様々な知識や考え方に触れることができ、自分が大人になった気がします。

榎澤：英語にしても国語にしても、先生方がすぐに名前を覚えてくださったのは驚きでした。一人ひとりの答案を丁寧に添削して、それぞれの状況も先生方は把握してくださるので、こちらも安心してできました。見ていただいているという感覚が受験勉強の励みになったんです。

それから、英語の読解の授業で、文法や単語のレベルではなく、もっと高度な文章読解の力が自分に足りていないことに気づかせてくださったのもグノの先生です。この経験は、将来にとってもすごく大きいと思います。

権代：僕の珍しい苗字は覚えてもらえないことが多いのですが、グノの先生はすぐに覚えてくださいました。ある授業で、僕から話したわけでもないのに、先生の方から、僕が化学グランプリの銅賞をもらったことを祝ってくださったことがあります。どこかで僕の受賞を見つけてくださったのが本当にうれしかったです。その先生は、毎週和訳の添削で厳しいコメントや温かい励ましを書いてくださり、過去問の添削でも有益なアドバイスをくださいました。東大の入試本番では、東大の入口で先生に会えたのがうれしかったし、そこで力をいただいたことが合格につながったと思っています。

有村：先生たちが一人ひとりを見てくださったことには本当に感謝しています。数Ⅲのテスト演習のセルフチェックシートには、僕の経験値の範疇でしか書けないことに対して、先生の高い経験値からフィードバックしていただけたので、次につながるセルフチェックシートになりました。

「センスがどうこう言う前にきちんとやりなさい」と授業中に強くおっしゃった言葉で、「数学の問題が解けるかどうかは運だ」というそれまでの認識が変わったこともありました。言葉だけでなく、授業中に「こうすればいいんだよ」という具体的な戦略を示してくださって、それを実践するための問題もたくさん提供してくださりました。テスト演習は、できてもできなくても学べるのがたくさんあって楽しくて、最後まで継続して学習できました。

鈴木：僕も数学に特別力を注いでいたので、数学の先生方にはとてもお世話になりました。僕はもともと算数が嫌いで、鶴亀算を見るだけで嫌という感じでした。小学校時代の算数は、塾でも「こういうものなんだよ」としか教わらず、いつも「何で？」と思いながら全然納得できないでいました。でも、グノの数学の先生方は、僕の質問に対していつも納得できる答えを返してくださいました。

グノの先生からは、「数学はこんなに面白くて、いろんなものに役立っているんだよ」ということを教わりました。現代社会が数学を基礎として成り立っているという事実を垣間見せていただけたので、受験にこだわることなく、きちんと数学と向き合う姿勢を身につけられました。「数学は楽しい」と思えて、数学に対する抵抗が全くなくなりました。

テスト演習を通して、入試科目としての数学の現実も見せてくださいました。他塾と比べても相当レベルが高く、僕は自分ができていないことを身に染みて実感させられました。自分のできなさを自覚したお陰で、入試ではおごりがなくなって、結果につながられました。



権代 凌さん (理Ⅰ・早稲田)



鈴木 天馬さん (理Ⅰ・海城)

グノーブルの環境

権代：振替できるシステムは助かりました。それから、受付の方がとても親切だったのが印象的でした。

榎澤：振替制度と親切な受付はグノの魅力でした。困ったことがあったら何でも相談できる雰囲気受付にありました。教室に忘れ物をした時も、受付の方が気づいて保管していただきました。

仲野：受付は本当に神対応でした。僕たちが無理なことをお願いしても、気持ち良く対応してくださるんですから。他塾では絶対に考えられないことでした。

鈴木：僕は、日程の柔軟さがグノの良さだと思います。高2の時、国語の講習で、4日間のうち1日参加できない日がありました。その時、担当の先生自らが日程調整の相談に乗ってくださって、他塾にはないグノらしさを感じました。

久保：通常授業でも、コマの設定が柔軟でした。僕が一番助かったのは、後コマがあったことです。僕は毎日部活に参加していたので、高2の時はずっと後コマを利用していました。他塾にはその柔軟性がないので、部活との両立が難しくなります。

有村：僕が印象的だったのは、先生方のメール対応です。直前期になって通常授業が終わってからも、先生方は過去問の添削をメールで受け付けてくださいました。僕は私立の医学部も受験したので、私立の過去問を解いていたのですが、中には数学で変な問題もあってパニックになりました。特に順天堂大学の数学は時間内に到底解き切れる量ではなかったんです。そんな時、順天堂大学の問題に対するクレームみたいなメールを先生に送ったら、先生は親身な返信をくださいました。「これは絶対に解き切れる量ではないから、この問題とこの問題を解いて、これは捨てなさい。その分を他の教科でとれば大丈夫」と書いてくださって、しかも、それがメールをした翌日には返ってきたので、本当にありがたく思いました。

理Ⅲの面接

有村: 面接官は3人で、メインで質問する方が最初に3つくらい質問をし、その後左から順番にそれぞれの質問がありました。理Ⅲの志望動機や高校時代の活動に関する質問がメインで、僕は文芸部に所属していたので、「文芸部はどのような部活だったのか？」などの質問でした。医学への覚悟や医学的な事柄への問題意識を問われるというよりも、「あなたはどのような人間なのかを一緒に見てみましょう」という意図の質問が多かった気がします。面接時間は10分の予定でしたが、私大の面接のようにタイマーで切るのではなく、話が弾めば時間も延びるようです。僕は15分くらいでした。

後輩へのアドバイス

久保: 主体的に勉強するのがいいと思います。グノには、あれやれこれやれという束縛が少なく、生徒一人ひとりを尊重してくれます。それを上手く活用して、周りに流されないで勉強を続けてほしいです。一般的に言われる勉強法、例えば問題集を解きまくるとか、過去問を解きまくるとか、そういうのにしがみつくとではなく、自分が実力を伸ばせると思う勉強法を客観的に考えて実行してください。そんな受験生を支えてくれるのがグノです。

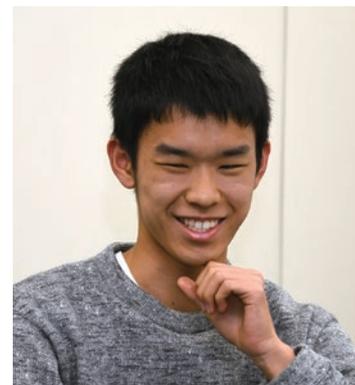
柘澤: グノの指導の特徴は、上からの押し付けがないことです。東大受験生は自由な勉強を好む傾向にあるので、そういう人にとって、受験勉強にも自分の勉強にも合わせやすいのがグノです。グノの授業には押し付けはなくても、知的な刺激には満ちています。グノを存分に利用して、学問の面白さを体験しつつ、勉強以外の高校生活も充実させてください。

仲野: グノの授業はとても素晴らしいと思います。それをしっかり復習して吸収していく心掛が大切です。塾に通うのはいいことですが、自分のキャパシティを超えてしまっただけでは意味がありません。その点、グノは、受験生が自分で考える時間を確保しやすい塾ですので、その環境を活かしてほしいと思います。

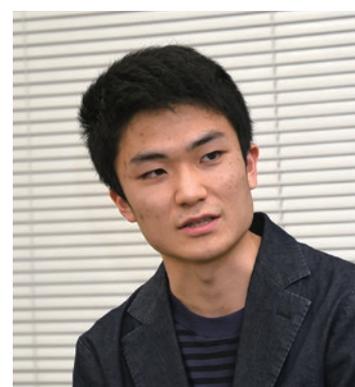
権代: グノは確かに上からの押し付けが少ないし、受験に特化してガツガツしているわけでもありません。実際、僕も自分でやろうと決めた勉強を自分の責任でやり、それで成長できたと思っています。過去問や他の問題集に集中するよりも、グノを信じて、グノの教材をしっかりと復習することが大事です。良質な教材に繰り返し取り組んで、実力を上げていってほしいと思います。

鈴木: グノはどの教科のどの先生も授業が面白いし、教材も、受験にも受験後にも役立つものばかりなので、きちんと取り組めば必ず楽しくなります。楽しければ続け、熱意も持ち続けられるので、自分にとって楽しい勉強を追求していくことが受験勉強を乗り切る上で大切です。僕は工夫することに楽しさを感じるタイプです。例えば、計画を立てる時も、自分の能力がどのくらいかを知るために問題集を1ページ解いて時間を計ったり、睡眠時間や他の生活時間を24時間から抜いていき残った時間を算出したりして、とにかく計画を改良していきました。そうした楽しみを見つけてみてください。

有村: 受験勉強で大事なのは、自分を客観的に見つめて自分の特質や性格をきちんとつかみ、「自分は何をすべきか？ どのような勉強法が合っているか？」を探求することです。グノの先生方は皆さん、信念を持った教材や勉強法を僕たちに提示してくださいます。だからといって、誰に対してもいつでも同じことしか言わないわけではなく、「こういうことが今の自分は苦手で、先生のやり方だとカバーできないかもしれない」と素直に相談すれば、生徒に合わせたお話をしてくださいます。信念は持っているけれど、「生徒は一人ひとり違う」ということをきちんと把握して下さる先生方は信頼できます。上手いかない時はグノの先生に相談してください。



仲野 太喜さん (理Ⅰ・駒場東邦)



柘澤 海斗さん (理Ⅰ・開成)